

1 香小研国語部会のテーマについて

「基礎的・基本的な技能の習得」と「活用する学習の構想」は両輪として、どちらもすすめていく必要があるテーマである。「知識・技能の習得」からそれを「活用する」学習へという方向での実践が多いが、身に付けた力を活用する中でさらに確実になり、定着していくという方向もある。授業をイメージする際に一方向だけでなく双方向で力を付けていくという視点も大事にしてほしい。

2 東かがわ市立本町小学校の取り組みについて

(1) スキル学習について

子どもにとって必要感のある学習でなければならない。国語科におけるスキル学習だけではなく、学校教育全体に対して生きて働くようなスキル学習にしなければならない。そして、子どもがこの学習に取り組んだ成果を実感していくこと、この学習が役立つことを実感できることが大切である。

(2) 3領域の関連について

なぜ関連することが必要なのかということをはっきりさせる必要がある。領域を関連させる場合にも必然性のある関連が必要になる。

3 言語活動充実に向けて大切なこと

(1) ステップを踏んで積み上げること

教科書に示されている教材には、その教材を用いた言語活動例やそれを行う際の留意点が書かれている。しかし、子どもたちに身に付けさせたい力を付けるために最もいい言語活動となっているのか、これまでに取り組んできた学習とどのように関連した活動なのかということを考えて見直し、示されている言語活動例に工夫を加えたり、新しい言語活動例を構想したりすることが必要になる場合がある。子どもの実態やこれまでの学習、取り組みを踏まえた上で、どのような力を付けたいかを明確にして授業を構想することを通して、言語活動を充実させていくことが重要である。このようにステップを積み重ねていくことによって、活動自体が目的になってしまうという不安は取り除かれるものと思う。

(2) 言語活動に取り組む際の発問や指示を明確にすること

言語活動を取り入れる際には必ず目的があり、その活動を通して子どもにどんな力を付けたいかということが設定されている。それぞれの目的を達成するためには、ポイントを絞った発問や指示を行う必要がある。

授業において話し合い活動を始めるときの発問例

- ・考えを交流することが目的の場合…「話し合ってどのような考えがあるか意見交換しなさい。」
「どんな考えがあるか確かめなさい。」
- ・複数ある意見や考えを一つに絞っていく場合…「話し合って最もよい意見の一つを見つけなさい。」
「お互いのよいところを見つけて一つの意見にまとめなさい。」
- ・お互いの意見を比較検討させたい場合…「自分の意見と比べて同じものや違うものに分けなさい。」
「似ている意見をグループにまとめてみなさい。」

このように言語活動を充実させるためには、その活動を取り入れることだけではなく、それに関連して発問や指示についても工夫していくことが必要である。